

ブロードバンド特別シンポジウム オープニング挨拶（板谷駿一 理事長）

皆様、おはよう御座います。P2Pについて考えるシンポジウム、今から5時半まで続く長時間の、いわばマラソン・シンポジウムに、はやばやとご参加下さり、有難うございます。

本題に入る前に、私ども、NPO法人プロ・ドバンド・アソシエーションの活動について、少しだけ紹介させて下さい。

ご承知のように日本のブロードバンドネットワークは急速に整備され、「今や、日本は世界に冠たるネットワーク大国 ブロードバンド大国になった」といって過言で無いと思います。しかし、そこを流れるコンテンツやサービスという面ではどうか？残念ながら、先進諸国に相当遅れをとっているのではないかと。

こうした中で、私どもは、NPOの立場から、ブロードバンドコンテンツが、質量共に豊かに制作され、かつ円滑に流通することに寄与したい。映像コンテンツの充実のみならず、新しいサービスやコンテンツが次々生まれ、ブロードバンドマーケット全体の市場規模が拡大すること寄与したい。さらにはこうした経済効果だけでなく、日本のソフトパワーや文化力が強化されることにいささかなりとも貢献したい。

こうした志を持ち、プロ・ドバンド・アソシエーションは産官学の連携の下で、さまざまな活動を行って参りました。具体的には、ブロードバンドにかかわるいくつかのテーマ別の研究会。例えば「映像配信ビジネス研究会。ブロードバンドを通じた映像配信ビジネスは日本ではなかなかまだ上手くいない。ビジネスモデルがなかなか成立しない。こうしたなかで、研究会は、慶應大学の中村伊知哉先生を委員長として、プラットフォーム・コンテンツ・ネットワークなどのさまざまな関係者が一同に会し、議論し、連携し、なんとか今日の状況を突破して映像配信を活性化していこうというものです。

また「コンテンツ流通プラットフォーム研究会」。クリエイターは恵まれていない、ブロードバンドに適した新しいコンテンツが育っていない、またブロードバンド環境に適した新しいコンテンツ制作・流通の仕組みができていない。そこで、慶應大学の稲蔭正彦先生を委員長とするベンチャー中心の研究会を設置し、新しいコンテンツ流通プラットフォームのビジネスモデルを検討しております。今年度は、実証実験を行います。

また「P2P関連問題研究会」。P2Pはネガティブなイメージのため、技術開発が遅れてしまっています。しかし、P2P技術は今後のインターネット社会にとって不可欠ではないのか？そこで、東京大学の江崎浩先生を委員長とし、P2P技術の重要性や可能性を再検討してみようというのがこの研究会の趣旨です。今日のシンポジウムは、この研究会での成果である「P2P基本提言」を発表すると同時に、さらに多くの皆さんを巻き込んで、広く議論を行おうと企画されたものです。

こうしたいくつかの研究会に加えて、「エグゼクティブサロン」という月1回の勉強会。また誰でもが製作者であり、発信者になりうるのがブロードバンド時代ですから、それにふさわしいクリエイターを育成しようという「クリエイターズサロン」。それから、ブロードバンドにかかわるホットテーマを取り上げ、年に2回ほど開催する「ブロードバンド特別講演会」。

私どもは、こうした活動を行っているわけですが、すべて手弁当のボランティア活動。それにも拘わらず、沢山の皆さんに非常に熱心に参加・協力を頂いています。大変ありがたく思っています。この場を借りて深くお礼を申し上げます。有り難うございます。

さて今日のシンポジウムのテーマP2Pについてですが、先程も申し上げたようにP2P技術に関連した裁判などで、日本のP2Pの技術開発は萎縮し、世界的に立ち遅れつつあると言われていています。しかし、一方インターネット利用の急速な拡大、通信と放送の融合などで、高品質の映像配信がいよいよ本格化しつつあります。このため、トラフィックが急速に拡大し、膨大なトラフィックの負荷をどう処理するかが、次第に大きな課題になりつつあります。この課題を解決する有力な手がかりが、P2Pではないかと言われている。

これまでの情報漏えいや著作権をめぐる問題、誤解も含めた様々な問題をクリアーしつつ、P2Pの技術開発をどう進めていくべきか？また技術開発を安定的に進めるにはやはり法律を含む諸制度の整備が必要なわけですが、それをどう進めるべきなのか？一体、P2Pは未来社会にどのような可能性を開こうとしているのか。

今日のシンポジウムでは、はP2P研究会の委員長をしていただいている江崎先生、副委員長でNTTアドバンステクノロジー特別顧問の石川宏さんを始め、P2Pにさまざまな角度から関係されている多彩な専門家の皆にお集まりいただき、とことん議論していただければと思います。会場の皆さんにも是非議論にご参加いただきたいと思います。時間はたっぷりございます。また総務省総合通信基盤局の長塩データ通信課長代理の大西公一郎さんにもご挨拶をいただきます。有難う御座います。最後にこのシンポジウムはP2P実験協議会の共催。様々な企業の協賛、それにボランティアの皆さんのご協力をいただき、開催することができました。関係者のみなさまに深く感謝いたします。有難うございます。

(以上)